

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E1121020		音楽理論・作曲法基礎(編曲法を含む。)(Musical Theory・Fundamental Method of Musical composition)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	3	教育学部			氏名 清水 慶彦 E-mail shimizu-y@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	楽譜の読み書き、音階と調性、作曲と編曲の方法の概論など、音楽理論の基礎を学ぶ。このことにより、音楽科教員として必要な基本的素養を身につける。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 楽譜の基本的なシステムや、音階と調性の理論など、いわゆる「楽典」の内容を理解し応用できる。																	
目標2 和声法の基礎を学び、初歩的な課題を実施することができる。																	
目標3 調性音楽における作曲法や編曲法の概要を学び、実施できる。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 音の高さ、長さ、強さとは何か																	
2 音をどのように記述すればよいか																	
3 「音階」音の高さのヒエラルキー																	
4 「調性」音高を組織化する手法																	
5 「和音」複数の音を同時にならす																	
6 「和声」和音はどのように移り変わるか																	
7 和声法の実践(1)基本位置の三和音の連結																	
8 和声法の実践(2)和音の転回とその連結																	
9 和声法の実践(3)さまざまな「バス課題」																	
10 和声法の実践(4)属7の和音																	
11 和声法の実践(5)属7の和音の転回、根音の省略																	
12 ここまでのまとめと小テスト																	
13 音楽作品にみる和声法の実践																	
14 調性音楽における作曲法とは																	
15 編曲の方法																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	和声課題の実施や楽曲分析、編曲実践などをともなう能動的修学。					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	課題の実施等(15h)															
	事後	課題の復習等(15h)															
教科書	『楽典 音楽の基礎から和声へ』(小鍛治邦隆 監著 2019年 アルテスパブリッシング)																
参考書	『中学校学習指導要領解説 音楽編』、『和声 理論と実習』(第1巻 島岡讓他 1964年 音楽之友社)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業中の課題	40%															
	授業中の小試験、試験等	60%															
	授業中の課題、小試験、試験等により総合的に評価。																
注意事項																	
備考	R2年度以降入学生については、3年次後期開講予定です。																
リンク																	
	URL																